

訃報 近藤喜文さん死去



近藤喜文さんが、99年1月21日午前4時25分、解離性大動脈りゅうのため東京都立川市の病院で死去されました。47歳。「耳をすませば」で劇場映画を初監督。「赤毛のアン」「火垂るの墓」「魔女の宅急便」「おもひでぽろぽろ」「もののけ姫」などで作画監督を務めました。また、「パンダコパンダ」「ど根性ガエル」などの原画マンとしても、優れた技能を示しており、それは<監督>以上に評価されるべき仕事ではないかと思えます。これからの活躍が期待されていた矢先の出来事でした。残念です。

訃報 持永只仁さん亡くなる



日本のアニメーション界に多大な足跡を残した監督、持永只仁さんが、1999年4月1日午後3時25分、所沢市の病院で腎不全のためご逝去されました。（享年80歳）

故人は、瀬尾光世氏の助手としてアニメ界に入り、戦中のアニメーション「フクちゃんの潜水艦」で実質的な監督をつとめるなど、漫画映画の秀作を発表した後、戦後は中国アニメ界発展に貢献し、尊敬を集めていた。また、人形アニメーションの技術を独学でいち早く確立して、「ちびくろサンボ」などの作品を通じ川本喜八郎、岡本忠成、中村武雄などの各氏に影響を与えた大ベテランのアニメーション演出家・アニメーターでした。

アニドウの活動にも長年理解を示して頂き、「ナーザの大あばれ」などの上映実施に尽力して頂き、講演をお願いしたこともありました。

アニドウは、慎んで哀悼の意を表します。

アヌシー'99にアニドウが協力

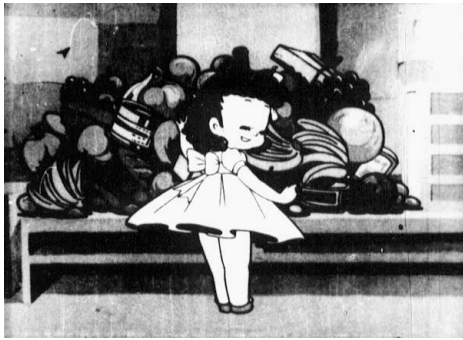


来る5月31日～6月5日に開催されるアヌシー国際アニメフェスティバル（仏）に、アニドウから六つのものを提供します。

ひとつは、日本の古い漫画映画の特集で1920～60年代の白黒のアニメです。題名/監督は下記。

「赤垣源蔵徳利の別れ」木村白山
「のらくろ伍長」村田安司
「絵本1936年」中野孝夫、他
「だんごの行方」大藤信郎
「新説カチカチ山」市川崑
「くもとちゅうりっぷ」政岡憲三
「桜(春の幻想)」政岡憲三
「魔法のペン」熊川正雄
「こねこのスタジオ」森やすじ

Total 90min.



魔法のペン（1947年）

英語で解説を書いたら長すぎて公式カタログに載せられないというので、ANIMELANDというあちらのアニメ雑誌に拾ってもらいました。1本1本フィルムの状態を補修しながら、短編9本を繋ぎます。

全部で2つのリールになりそうで、16mmでも持参するには重いなあ。

二つめはアニメ製作の素材や原画です。多くの方から寄贈された物を中心に50点程提供します。盗難・紛失が心配です。故森やすじ先生、故椋尾篁さんの原画もご遺族の提供で展示するつもりです。

アニメミュージアムの構想を明確にして国際的な協力を訴えます。

資料の半分はアヌシー会場でディスプレイするつもりです。そのために開催の二日前に現地入りします。椋尾篁さんのご家族も参加されることになりました。非常に貴重な物は持参しますが、ちょっと運ぶには気をつかう荷物です。

三つめは、アニドウが昨年製作したアニメ「この星の上に」です。長年の夢であったアニメの製作を実現できましたが、制作費を使いすぎてとても貧乏になりました。ついにアヌシーのグランプリか、と期待しましたが、これは下記の事情で審査外になってしまいましたので、日本特集で上映してくれるそうです。なんだか残念です。また仏語版を作るつもりで訳を終えていたのですが、費用がなくて英語スーパー版のままです。訳者の田中史君ごめんなさい。

四つめに提供するの、なみき自身の老体です。何の間違いか、国際審査員として抜擢されました。まあ、最近毎年の開催となったので審査員も水増しということでしょうか。アヌシーの舞台用に下駄だけは新しくしようっと。

五つめ、日本の短編特集に岡本忠成監督の作品がないので余計な口を利きました。そうしたら「ちからばし」と「あれはだれ?」の35mmを持って行くことになりました。ずいぶん重いです。

六つめは、「パンダコパンダ」をやりたいと事務局側が言うので、雨降りサーカスにしたらとこれまた余計な口を利きました。ついでにルパンの「死の翼アルバトロス」も加え、さらに近藤さんの「ニモ（パイロット）」も押し込みました。そうしたら全責任を負って16mmを3本持って行くことになりました。かなり重いです。

以上の他に、今回特別ゲストとして参加される大塚康生さんや撮影スタッフのスケジュールなども調整しています。パリのスタジオ訪問とアニメ学校などでの座談会を大塚さんで行う予定で、これを撮影して番組を作ろうと思っているのです。カメラなど機材はすご〜く重いです。どうやったら審査員をやりながらビデオを撮れるのでしょうか？

いでにスチル写真も撮らなきゃ。

アヌシーの帰りに、ハンガリーのカチカメット・アニメ映画祭からも招待を受けています。こちらでも前記の日本漫画映画を上映してくる予定です。しかしフィルムはダメだということで持って行く16mmは使えず、別に新しくベークカムに起こすことになりました。それを編集して、さらにPALに方式変換しなくてはなりません。これは経費がかかりすぎです。ベークカムテープはそれほど重くありません。これだけなら！

おまけに大きな声じゃ言えませんが、どうもビデオで撮影してきてTV番組も作るらしいです。懲りないというには、これですね。

と色々な計画がありますが、現在(99.5.8)開催まで後一ヶ月を切りました。もうパニックです。そんな中でこの1/30を編集している国際審査員をみなさんどうぞ誉めて上げて下さい。(え、好きでやってんだらうって?そりゃそうですけど.....)
